

街頭演説会(新橋:2009年11月30日)

■20091130 その1 国会対応について

いま、日本の政治経済を見ていると大変厳しい時期だと思います。

第一に景気の問題があります。二番底が心配される。そういう中で政府はデフレ宣言を出しました。そして急激な円高が進んでいます。私の友人の大学の教師の話では、教え子の就職先がなか



なか決まらないということです。先日は北海道へまいりました。「北海道の来春高校卒業予定者の就職はまだ三割しか決まっていない」と教育関係の方が頭を抱えていました。

第二に、外交も一番大事な日米間が沖縄の基地の問題をめぐる大臣発言がしょっちゅう変わり、大変不安なところに来ている。そして、三番目に連日のように報道される、鳩山総理や小沢幹事長の政治と金の問題。政権が代わり、このことに触れることは、内心忸怩たるところがあります。しかし政治をきちんと進めていくためには信頼が必要です。そうしますと残念ながらこの問題はどうしても言わざるを得ない。鳩山さんは逃げずに、国会でわれわれの疑問にもしっかりと答えていただかなければならない。

このような状況を考え、私どもは、野党としては大変異例のことではありますが、衆議院の予算委員会でこういう問題をしっかり審議する。参議院の決算委員会で総理も出席する総括質疑をしっかりとやる。政権交代があって、皆さんの期待の中で鳩山さんが総理になられたにもかかわらず、この国会では党首同士の党首討論が一回も行われていない。一回もしないのはおかしいではないか。

こういうことをきちっと実施するならば、自民党は会期延長に賛成すると申し上げたのです。ところがわずか4日間の会期延長で、党首討論も、衆議院の集中審議も、参議院の決算の総括審議もやらないというゼロ回答でした。

これは、政治主導という名の小沢幹事長の強権政治ではないか。数の力を頼んで、こういう無理な国会運営を進めていくことに私は断固として抗議したいと思います。残念ながら、鳩山さんは逃げたとしか言えません。

鳩山さんは一人当たり二万六千円の子供手当を支給するとおっしゃっています。しかし、何のことはない、鳩山家では五年間に九億円の子供手当があったのか。びっくりするのは私どものほうです。こういうことにしっかり答えて、国会できっちり議論をしていただきたい、という思いであります。

■20091130 その2 経済の話

経済の話をしたと思います。

先ほども触れたように二番底も心配される状況です。それから雇用も心配です。また、円高もどんどん進んできて、輸出で頑張る企業などは、本当に不安に駆られているのではないかと思います。

私どもは与党でありました時に、今年は非常に厳しいと判断し、予算が成立した後、年度が開けるとすぐ補正予算の作成に着手し、15兆円の経済対策を打ちました。しかし、これだけでは、年末近くになると息が切れてくるかもしれない。第二次補正予算はその頃考えなければいけないと思っていたわけです。ついこの間まで、何とか持ち直してきたのは、私たちの補正予算の効果があったのでしょうか。

ところが鳩山政権ができ、不要不急だとして、私どもの景気対策、補正予算の中から2兆7千億を削り、無駄を省いたとおっしゃいました。これから、補正予算を作るとおっしゃっていますが、おそらくその中身は、その削られたものと大差のないものが出てくるのではないかと思います。

そうしますと、私どもの考えていたテンポに比べ、鳩山政権は半年遅れで対策を打つことになる。この半年の違いが大きいのです。

世の中に鳩山不況という言葉があるのは、まんざら嘘ではないと思います。

なぜ、鳩山不況といわれるのか。

まず、第一に、円高の方向に進んだ時に、一部の閣僚が円高を容認するような誤解を招く発言をしたことにも円高基調が定着する原因があったと思います。そして、もうひとつは普天間の問題等でアメリカと日本がスクラムを組めていないという気持ちがマーケットにもあり、不安心理にかられたという要素も否定できないと思うのです。

こういう時には、鳩山総理大臣はただちにオバマ大統領と電話会談などをして、しっかりとした対応を考えなければなりませんし、国際的にもこの対応の枠組みをきちっと作るような会議をただちに呼びかけるべきだと思います。こういうところのハンドリングが遅いのです。

20091130 その3 日本をどの方向へ導くのか

それからもう一つの問題は、鳩山政権では個々の対策はあり、個々の無駄は省くという議論はあります。確かに事業仕分けはテレビで見ている面白い。自民党もやっていたのですが、「公開の場でやればよかったな」という議論が自民党にもあります。

しかし、問題は個々のこれが無駄だとか、こういう手当を支給するというのではなく、日本全体をどういう方向に引っ張っていかようとしているのか示す必要があるということです。

少子高齢化も進んでいます。グローバル化により国際間の競争も厳しい。そういう中で日本の成長の種をどこに蒔き、いかにして元気が出るようにしむけて行くのかという大方針があり、そのもとでどうやって無駄を省いて行くのかということではなければならないのではないのでしょうか。

そういう全体の設計図がさっぱり見えないことに、もうひとつ大きな問題があると思います。

これは実は菅さんのおやりになっている国家戦略室というところがいまだに動いていないというところにも問題が表れてきています。自民党政権では、経済財政諮問会議というものがあり、ある場合には竹中さんであったり、あるいは与謝野さんであったり、司令塔がいて全体の方向を引っ張ってきたのです。鳩山政権には司令塔の姿が見えません。

それに加えて、こういうときには日銀と政府の息が合うということが大事ですが、私はそのところも相当疑問があると思います。

■20091130 その4 鳩山総理へのアドバイス

野党としては、与党の足りないところは徹底的に批判したいという気持ちにもなります。しかし、私も、国民の一人ですから、こういう景気の厳しいときに、鳩山さんにはしっかり上手にやってほしいという気持ちもあります。

ですから、自民党は、自民党の知恵を鳩山さんに使っていただいても構わないと考えています。

では、何を鳩山さんにやっていただきたいのか。

まず第一に司令塔をはっきりさせ、全体像をしめしていくということです。

また、税収が大変減っています。そしておそらく景気対策のために、借金もしなければなりません。

こういう状況で予算を組んでいくときに、中期長期の見通しを何も示さずにやると、マーケットは弱気になります。国会の質疑には、来年には示すと鳩山さんは答弁していましたが、来年では遅いのです。今年予算を組むときに、同時に中・長期の見通しをしっかりしめし、マーケットにいたずらな不安を与えないようにしなければなりません。これが私の鳩山さんに対する2番目のアドバイスです。

そのうえで民間需要を刺激するような補正予算をしっかり組まなければなりません。

まず、雇用が不安なときですから、徹底した雇用対策を打って、財布の紐が少しでも緩むように持つていくことが大事です。

それから、こういう冷え込んだときには、頑張って思い切ってやってみようという方が出てこないと明るくなりません。そういう方が頑張れるように、リスクをとられる方には政治が適切にお助けをしていく、バックアップをしていく。そのための税制を織り込んでいくということも必要です。

そして、もうひとつ、即効性のある地域おこしや、鳩山さんは「コンクリートから人」こういうことを言い、公共事業には非常に批判的ですけれども、公共事業はある程度雇用を支え、即効性もないことはないのです。そういうこともしなければいけないのではないのでしょうか。私はこのようなことを鳩山さんに申し上げたいと思います。

自民党は、今申し上げた、「鳩山さん、こういうことを参考になさってください」という案をきちっとまとめたいと思います。

さて、それでは、その財源はどうするのかということになります。

今申し上げたことは、私たちのつくった15兆円の景気対策から2.7兆円を鳩山さんは削られましたので、かなりの部分がこの削った分で補えると思います。ですから、この削られた分、執行停止の部分は、メンツにこだわらずに、それをやるのだとおっしゃるのが早いのではないかと思います。

2.7兆円を超える部分はどこに財源を求めたらいいのか。これはやや皮肉をこめて申し上げます。鳩山さんは公務員の経費を2割削減するということをマニフェストで表明されました。この部分には全然手が付いていません。もし本当に鳩山さんが現在でもできるとお考えなら、この中からかなりの原資が出てくるのではないかでしょうか。

私どもはこれから精力的にこういう景気対策を作り、提示をし、もし政府が参考になさるのなら、それも結構だと思っています。

■20091130 その5 保守の政治

そして、最後に申し上げたいことです。自民党は保守の党として、すべき主張はきっちり主張していきます。

第一に私たちは、家庭の絆を大事にしなければいけない。地域社会の絆というものも大事です。私たちの先輩が一生懸命努力をして、日本の歴史や伝統を作ってきた、よき歴史や伝統は守っていこうではないか。先輩の努力をわれわれは受け継いでいこうではないか。そういう考えに立って自由民主党は政治をしていきたいと思えます。そして、それと同時に幸いなことに日本には、まだ、家族のため、あるいは自分の住んでいる地域のため、そして自分の職場の同僚たちのため、一生懸命工夫をし、汗をかいて働くという方がたくさんいらっしゃいます。

私たち自民党は個人個人が努力をし、汗をかいて頑張る。このことを大事にする政治でなければいけないと思えます。しかし、個人が頑張るだけではどうしようもない場合には家族が助け合い、地域が助け合い、今のようなときにはボランティア活動などで助け合う。そういうことが必要でしょう。

つまり、自ら助ける自助の上に、共に助ける共助が必要です。そしてそれでも駄目な場合には政治が皆さんからいただいた税金で、しっかりバックアップしていく、助けていく、公が出る、すなわち公助が必要だと思えます。自助・共助・公助このバランスの良い仕組みを日本の政治、自民党の政治が守っていかなければならないと思えます。

このことを申し上げているのは、じつは、民主党の政策体系に対する批判でもあります。

たしかに少子化は問題です。でも一人当たり2万6千円の子供手当を大変だから差し上げる。民主党の皆さんあるいは社民党の皆さんは、子供は社会で育てる、こういうふうにおっしゃっている。そういう面は確かにあります。しかし根本は子供は家庭の中から育ってくるという原点を忘れてはだめだと思います。世の中には子供を育てる費用ぐらいは出せるという方もいます。そういう方にも全員一律に支給するというようなことを、あらゆる分野でやっていったら、気が付いたら、ベルリンの壁の崩壊で滅びたはずの社会主義が蘇ってしまったのではないかと、そういうことにもなりかねません。だから私たちは、自助と共助と公助のバランスの良い政治を作っていきたい。このように思っているわけです。

私どもは野党になったからといって、水面下で向こうの脛を蹴っ飛ばすような政治をやろうとは思っていません。国民の皆様と対話をし、向き合って、野党にはなったけれども自民党はしっかり国民を見つめながら政治をしている、そう感じていただける政治活動を全力で展開したいと思っています。

皆様に暖かいご支援をいただき、そして、足りないところがありましたらご叱声をいただきますようお願いいたします。